

対話式アンケートによる街路景観の評価法

名古屋工業大学 学生員 ○ 榊 原 佳 広
 名古屋工業大学 学生員 佐々木 秀 臣
 名古屋工業大学 正 員 和 田 かおる
 名古屋工業大学 正 員 山 本 幸 司

1. はじめに

近年、都市空間のアメニティが重要視され、名古屋市においても、様々な都市景観整備が行われている。ところで景観評価に関しては、SD法を用いて因子を見だし評価する方法や評定尺度法を用いる方法が提案されている。またCGを用いて景観シミュレーションを行うことにより具体的な景観評価を行うシステムも構築されているが、この方法は、景観設計にそのまま応用できるという利点を持っている反面、不自然な画像になりやすいという欠点も持っている。

本研究では、名古屋市内で撮影した街路写真を対象に、レパードグリット発展手法を参照して言葉で表現されるいくつかの項目をデータとして取り上げる対話式アンケート調査と、形容詞対を用いてデータに対するSD法を用いての景観評価方法を提案する。(図-1参照)そして、SD法で得られたデータを対話式アンケートに対比させることにより、実際のどの部分からどのような印象を受けているかを関連づけようとするものである。

なお本稿では、名古屋市内の歩道を研究対象とし、歩行者による歩道景観評価について報告する。

2. 調査方法

1) 写真のグルーピング

名古屋市内の歩道の写真をランダムに100枚撮り、歩道幅員で3m以上と3m以下に分け、それらを被験者に提示して類似性をもとにクラスター分析し、それぞれ5つのクラスターに分ける。次に各クラスターを代表するような写真を選定し、その写真を用いて本調査を実施する。なおアンケートは20歳前後の男女13人を対象に行う。

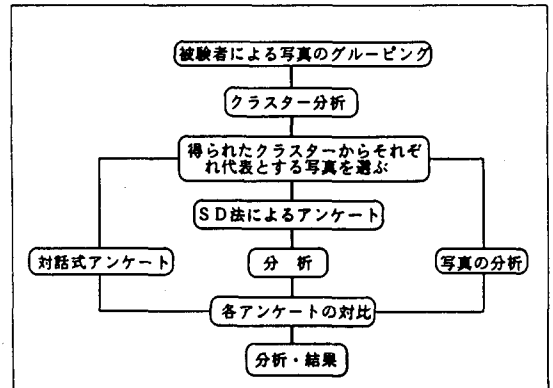


図-1 景観評価のフロー

2) 対話式アンケート

クラスター分析で得られた写真に対し、被験者は好ましさを基準に5段階評価(最も望ましい写真を5と評定する)する。次に各写真のイメージを聞き、そのように評価した具体的根拠を尋ねる。またそのイメージからどのような印象を受けるかについても尋ねる。その際、回答を引き出すような言葉は事前に一切与えず、被験者が容易に回答できなくなるか、回答が基本的な形容詞になるまで繰り返す。なおアンケートは、1)の被験者とは異なる20歳前後の男女20人を被験者として実施する。

3) SD法によるアンケート

クラスター分析を行う際、先に挙げた名古屋市の歩道写真100枚の中から数枚を選定し、それから感じとれる形容詞を被験者にリストアップさせる。次にその形容詞を用いて予備実験を行い、両極形容詞対を10個に絞り込んだ後(表-1)、5段階評定でSD法によるアンケートを実施する。なおアンケートは、1)、2)の被験者とは異なる20歳前後の男女40人を対象に行う。

3. 分析方法と結果の考察

クラスター分析で得られた、各クラスター代表の写真について分析する。ここでは紙面の都合上、写真4（熱田区の高層住宅地の片側4車線の道路脇の歩道で、交通量は朝と夕を除くとそれほど多くない。AM11時撮影）を事例として分析方法とその結果について述べる。歩道の占有率、緑地の占有率、ガードレールの有無などの物理的特徴を分析し、特徴を数段階評価した（表-2参照）。そしてSD法によるアンケートで用いた各形容詞との相関について分析した。またSD法によるアンケートの結果からイメージを導き出した（表-3参照）。そして対話式アンケートでの回答の中で個々の被験者が回答した一番簡単な表現を中心に分析し（図-2参照）、その写真のイメージを導き出した。その際、SD法によるアンケートの分析結果を参照することで客観性を補うことにした。

次にそのイメージと一番相関の高い具体的な因子を導き出し、具体的な因子と写真の物理的な特徴との間にどのような関係があるかを検討した。ここで事例とした写真4については、あたたかい、気持ちがいい、きれいな、明るい、やわらかい、落ち着いている、という因子が読みとれた。次に図-2より明るいという因子は、主として緑がある、日があたっているという因子に起因することが分かる。

4. おわりに

今後は、全写真と個々の写真についての対比を行い、因子と写真の物理的特徴と被験者の感じるイメージとの関連性を分析する。分析結果の詳細については講演時に述べる。

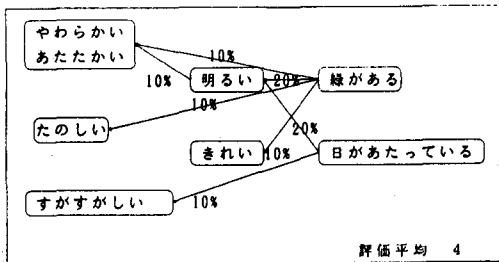


図-2 対話式アンケートの結果（写真4）

表-1 アンケートの用いた形容詞対

あたたかい	つめたい
気持ちがいい	不快な
広い	狭い
すっきりした	ごみごみした
きれいな	汚い
明るい	暗い
都会的な	田園的な
かたい	やわらかい
落ち着いている	騒々しい
開放的な	圧迫的な
好ましい	好ましくない

表-2 歩道区間の物理的特性（写真4）

	占拠率	評価
空	6.2%	2
ビル	3.3%	2
車道	4.4%	2
歩道	15.6%	3
緑	70.3%	5
ガードレール	0%	1
看板	0%	1

	程度	評価
日当たり	良好	4
車	0台	1
人	0人	1
路面	コンクリ(土)	2

表-3 SD法によるアンケートの平均（写真4）

